第１回ＪＡ新みやぎ少年野球大会　競技規則

１．チーム編成

①監督1名、コーチ2名以内、選手20名以内で編成しなければならない。ただし、監督、コーチは成人者でなければならない。

②大会でベンチに入れる人数は、監督、コーチ、選手及びチーム責任者（引率責任者）、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）各１名の計27名以下とする。

　なお、熱中症対策として保護者2名までベンチに入ることができる。

③背番号は、監督30番、コーチ28・29番、主将10番とし、選手は0～99番とする。

④１回戦から準々決勝までは自チームの試合の審判として帯同審判員を1名選出する。

２．用具、装具等

①試合球については、連盟公認の主催者が用意するＪ号球とする。

②バットは連盟公認（ＪＳＢＢマーク）を使用する。

③捕手は、連盟公認のマスク、レガーズ、プロテクター、ＳＧマークのついた捕手用マスク、ヘルメットを装着しなければならない。

④打者、次打者、走者、ベースコーチはＳＧマークのついた両側イヤフラップ付きのヘルメットを必ず着用しなければならない。

⑤同一チームの監督、コーチ、選手は同色、同形、同意匠のユニフォームとし、帽子、アンダーシャツ、ストッキングは同色とするが、ベンチ入りする選手が違うユニフォームの場合、試合前に対戦チームの了承を得ること。

⑥スパイクは金属製金具の使用は認めない。

３．規　則

①本大会は、全日本軟式野球連盟規則及び学童の部規則に準ずるが、本大会競技規則が優先する。

②試合時のベンチは、組み合わせ番号の若いチームが１塁側とする。

③メンバー表は、試合開始予定時刻30分前、各チームの監督と主将は大会事務局に3部提出し、先攻後攻を決め試合に備える。メンバー表には登録選手全てを記載し提出するものとする。

④グラウンドルールは、会場の審判員の指示によるものとする。

⑤1回戦から準々決勝戦までは、時間制限・イニング併用で、50分または5イニングとし、45分を超えて新しいイニングには入らないこととする。先攻の攻撃が終了し45分を超えた時点で後攻がリードしている場合は、その時点で終了し後攻の勝ちとする。コールドゲームは、3イニング以降10点差とする。同点の場合は抽選により勝者を決定する。

⑥準決勝は、時間制限・イニング併用で、60分または5イニングとし、55分を超えて新しいイニングには入らないこととする。先攻の攻撃が終了し55分を超えた時点で後攻がリードしている場合は、その時点で終了し後攻の勝ちとする。コールドゲームは、3イニング以降10点差とする。同点の場合は、タイブレーク方式により勝者を決定する。

⑦決勝戦、第3位決定戦は5イニング・時間制限なしで行い、点差によるコールドゲームを適用しない。5イニングを行い同点の場合は、2回まで延長し、同点の場合はタイブレーク方式により勝者を決定する。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 1回戦・2回戦  準々決勝 | 準決勝 | 第3位  決定戦 | 決勝戦 |
| 試合時間 | 50分 | 60分 | 制限なし | |
| イニング数 | 5 | | | |
| 同点の場合 | 抽選 | タイブレーク方式 | 2回まで延長し、同点の場合はタイブレーク方式 | |
| コールドゲーム | 3イニング以降10点差 | | 適用なし | |

⑧同点時のタイブレーク方式は下記のとおりとする。

|  |
| --- |
| 継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、2塁走者は順次前の打者とする。すなわち、ノーアウト１・２塁の状態として、1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない時は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。 |

⑨天候等により試合が続行不可能となった時でも、3回まで終了していれば試合は成立する。

⑩選手交代を行う時は、監督が球審に申告する。

⑪投手の投球練習数は、1イニング目と投手交代時は7球、2イニング目以降は3球とする。選手交代は投手も含め駆け足で行う。

⑫タイムによる選手の集合は、１試合攻撃・守備それぞれ2回までとし、アピール権は監督のみとする。

⑬1投手の1日の投球は、健康管理上、２試合、７０球（4年生以下６０球）を限度とする。なお、投球中に規定投球数に達した場合は、その打者の打撃中に攻守の交代となるか、打撃が完了するまで投球できる。

⑭投球数の管理については、大会本部が行う。

４．禁止事項

①足を高く上げた危険なスライディング。

②守備側のタイム中の投球練習。

③投手が変化球を投げること。（変化球は全てボールと判定する）

④かくし玉を禁止する。

⑤アウト後のボール回し。

⑥ベンチ内での携帯電話やパソコンの使用は禁止する。ただし、電子スコアの記録用に限り１台の使用を認める。

⑦野手が走者に対し故意に塁をふさぐ行為や用具を塁上に置くこと。（走塁妨害）

⑧選手（守備・攻撃双方）が塁上に腰を下ろす行為。

５．その他特別規定

①１回戦から準々決勝までの審判は、当該試合の各チームより1名の帯同審判員を選出し実施する。

②試合のスピードアップを図るため、ファールボールは双方のベンチのチームが拾い、ボールボーイに渡す。

③ベンチ内のメガホンの使用は１個に限り使用を認める。

④本大会の出場チーム並びに応援者は、如何なる場合（試合中・試合観戦中を問わない）も他人（自チーム・他チームを問わない）の名誉を傷つける野次、発言を禁じ、これに反したチームは失格とする。

⑤その他、規定に定めのないことは、都度大会事務局で協議し決定する。